

□議員名：吉永美子

1 環境問題について

論点	市行政が先頭に立ってごみ焼却量を減らす取組をどのように行っているのか聞く。
回答	第二次総合計画において循環型社会の形成を推進している。廃棄物については、温室効果ガスの排出削減や自然共生社会づくりのために市民と一体となって、5Rを進めることにより減量に取り組んでいる。

論点	食品ロスや燃やすごみを減らす取組を進めている市長部局として、学校の残渣などを焼却している現状をどう評価するのか。
回答	給食残渣のリサイクル、飼料化は、ごみの減量化の方法の一つだと考えている。リサイクルすることに対して、しっかりと教育委員会等と協議していきたいと思っている。

論点	以前は飼料化していた市民病院の給食残渣について、現在、環境衛生センターで焼却しているが、今後も続けていくのか。
回答	市民病院の給食の残渣については、市長部局と共に検討していきたいと考えている。

論点	本市は率先実行計画を策定し、地球温暖化対策を推進しているが、項目ごとに目標を設定し、評価する必要があるのではないか。
回答	個別に評価が必要であると思われる事項については、次回の計画時までには評価方法などを含め、研究していきたい。

2 空き家問題について

論点	国土交通省の有識者委員会が2月、今後の対策の在り方を取りまとめた。本市の実態を踏まえて、この提言をどう捉えているのか。
回答	本市の空家等対策の推進に関する条例や、空き家対策を総合的かつ計画的に実施するために策定している山陽小野田市空家等対策計画について、所要の改正を行い、今後も増加することが予想される空

	家等の対策に取り組んでいく。計画の改正については、今年度中を目途に進めていきたい。
--	---

論点	他市の例のように、「空き家対策ガイドブック」や「おうちの終活ノート」のような取組ができないか。
回答	現在、空き家を所有している方、また、今後空き家となる可能性のある住宅をお持ちの方などに、将来の管理方法や利活用などの対応策を早い時点で考えていただくこと、そして空き家を放置することのデメリットを正しく理解いただくことが重要と考えているので、ガイドブック等の作成も含め、他市の例も参考にしながら、本市においてどのような手法が効果的か調査研究していきたい。

3 若者会議について

論点	若い人たちの意見をまちづくりに反映することが大切であるという観点から若者会議の設置の必要性を取り上げてきたが、現状を聞く。
回答	令和元年度と3年度に実施した若者会議については、若者の視点による本市の魅力発信に係る意見を聞き、地域振興の諸施策に反映させるために設置した。文化・スポーツの振興策について提案書を頂き、所掌事務を終了したため、令和4年3月に廃止し、現在に至っている状況である。

論点	若者会議を今後展開するに当たり、頂いた提案書を一方通行に終わらせるのではなく、きちんと回答を戻していくべきではないか。
回答	議員から集約する課がないと指摘いただいた。各課で若者の意見を取り入れるようなワークショップなどを設置した場合は、企画課を合議として市長、副市長に決裁を取るようなシステムをつくりたい。

4 子育て支援について

論点	赤ちゃん誕生後のブックスタートを行っていないことについて、これまでも提言してきたが、言語発達状況や個性に合わせた「パーソナル知育絵本」の配布を提案する。
----	--

回答	<p>いろいろな本を読んで子供たちを育てていくという視点に立って、ブックリストを配布しているので、パーソナル知育絵本の導入については、現在、予定していない。</p>
----	--

論点	<p>3月末に文部科学省が不登校対策として「COCOLOプラン」を新たに策定したことを受け、子供の不登校に悩む保護者の支援がどのように強化されるのか。</p>
回答	<p>市内2か所に設置しているふれあい相談室での保護者面談や電話での相談、ヤングテレホンによる電話やメールでの相談、また、各学校からの要請に応じたスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの緊急派遣体制の整備など、多様化する保護者の不安や悩みに寄り添い、柔軟に支援できる体制づくりに努めている。</p>

論点	<p>「COCOLOプラン」を受け、不登校の子供の保護者であれば、誰でも自由に参加できる保護者の会を教育委員会が設置すべきではないか。</p>
回答	<p>保護者が孤立する結果、その影響が子供に伝わるということは十分に考えられる。そうしたことを踏まえて、保護者が相談しやすい体制をまず学校でつくっていききたいと考えている。</p>